

経営比較分析表（令和4年度決算）

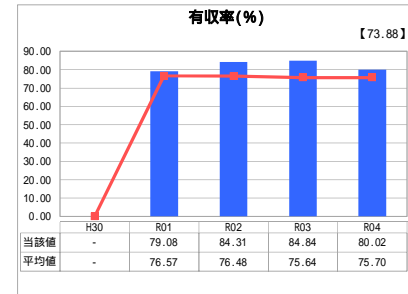
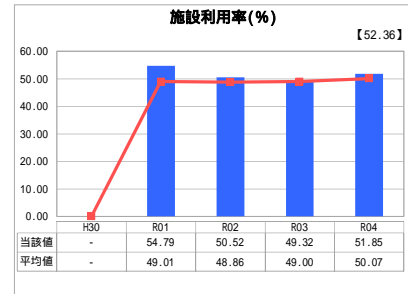
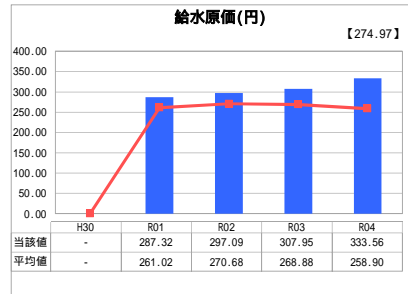
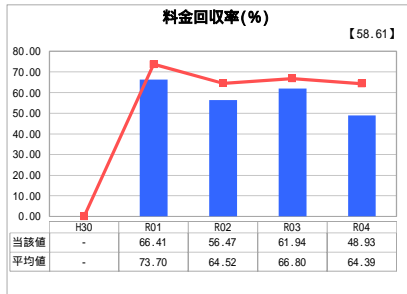
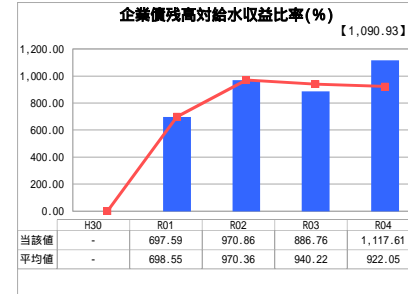
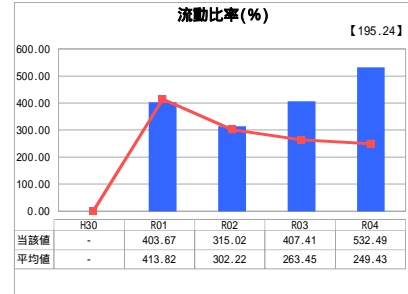
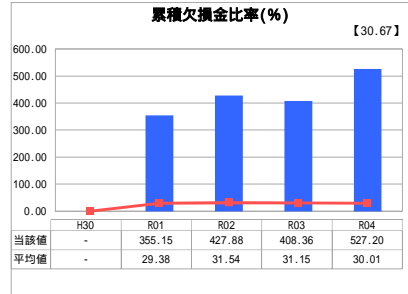
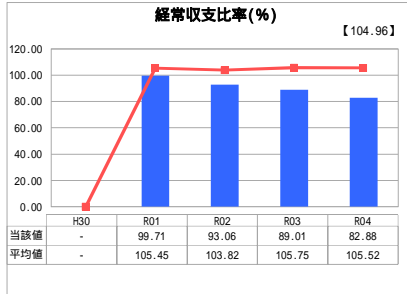
兵庫県 佐用町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	73.50	96.94	3,465	

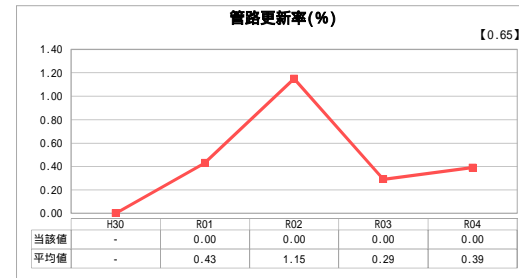
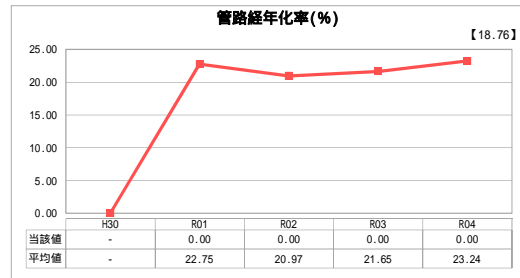
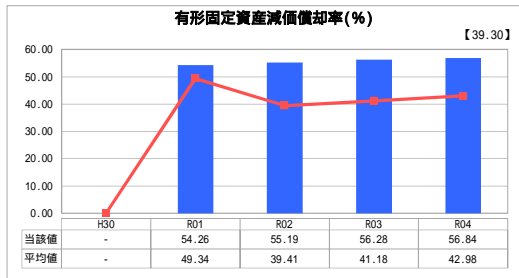
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,499	307.44	50.41
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,584	28.40	126.20

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
● 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

H31年4月より奥海簡水と統合したことに伴い、上水道事業から簡易水道事業(法適)となっている。

経常収支比率及び料金回収率が100%を下回っていることから、費用が給水収益を上回っていることが確認できる。山間地という地理的不利な点から投資規模が多額となり維持管理費に比例している。また、コロナ禍における原油価格や物価高騰等の影響などを受け、事業者を支援するため、水道料金の減免実施により、累積欠損金比率が増加している。

流動比率は事業費未払金の減少等により前年度より増加している。

企業債残高対給水収益比率は、上水管の更新や老朽設備の更新等の事業に伴い、企業債の新規発行額が増加したため、類似団体及び全国平均を上回っている。

給水原価は、類似団体と比較して高く、維持管理費が増大することが伺える。山間地であるため設備への投資が多く、減価償却費が過大となり、送水コストが大きくなっていることが原因と考えられる。

施設利用率及び有収率は類似団体と比較して高く、施設の稼働状況は適正な範囲と言える。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が56.84%で、施設の老朽化の進行が見られる。

今後、耐用年数が経過する管路は増加する見込みである。

耐用年数経過時に更新の計画をしておく必要がある。

全体総括

山間地という不利な立地条件に住居が点在している。送水にかかるコストが都市部などの人口密度が高い地域に比べると割高になるのが避けられない状況である。

また、過疎化による人口減少が加速化し、今後の給水収益はさらに減少を見込まれる。

経営戦略及びアセットマネジメントにより事業統合等、長期的な視野のもとで計画的な経営に取り組み、経営改善に努める。